

飯田市立病院 3 西病棟に過去に入院された患者様またはご家族の方へ
看護研究にご協力をお願いいたします。

2022 年 7 月 30 日

「ドレーンチューブ類の予定外抜去予防への取り組み～固定方法に視点をおいて～」に関する看護研究を実施し、第 41 回長野県看護研究学会にて発表します。

飯田市立病院倫理審査委員会の審査による飯田市立病院長の承認を得て実施しています。
この研究は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開し、可能な限り拒否の機会を保障することが必要とされています。

倫理審査承認番号	
研究課題名	ドレーンチューブ類予定外抜去予防への取り組み ～固定方法に視点をおいて～
所属(診療科等)	看護部
研究責任者(職名)	三浦 旬子(看護師)
研究実施期間	2021 年 3 月～2022 年 2 月
研究の意義、目的	2020 年度のドレーンチューブ類に関わるインシデントレポートより予定外抜去の状況を分析し、75 歳以上の高齢者や認知機能の低下、せん妄の前駆症状がある者が高リスク患者であることが明らかとなった。そこで、高リスク患者の予定外抜去を減少させる目的で、有効な固定方法の検討に取り組んだ。
対象となる方	2020 年 4 月～2021 年 2 月の期間に 3 西病棟に入院し、ドレーンチューブ類(中心静脈カテーテル、末梢点滴、胃管、膀胱留置カテーテル、胸腔ドレーン、硬膜外チューブ、胆道系ドレーン、腹腔ドレーン)を挿入した方
利用する診療記録／検体	対象者の背景(ドレーンチューブの種類、挿入期間、固定方法、認知症自立度判定、せん妄の前駆症状の有無、身体抑制の内容等)、看護記録、2020 年度の 3 西病棟で起きたドレーンチューブ類に関するインシデントレポート
研究方法	2020 年度の 3 西病棟で起きたドレーンチューブ類のインシデントを分析する。ドレーンチューブ類の文献等を参考に、固定方法、観察ポイントを検討し、評価する。
研究代表者	研究責任者: 三浦 旬子
問い合わせ先	氏名(所属・職名): 三浦 旬子(看護部・看護師) 電話: 0265-21-1255

当院外へ患者様を直接特定できる個人情報ができることはありません。

患者様の氏名、入院番号などで個人の特定が可能な情報は削除されており、必要な情報のみを集計します。研究成果は今後の看護の発展に役立つように学会で発表しますが、患者様を特定できる個人情報は利用しません。

この研究にご自分の診療記録等を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、上記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

研究不参加を申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはありません。ただし、同意取り消しの申し出をいただいたとき、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合は、結果を廃棄できないこともあり、引き続き使わせていただくことがあります。